

隣接地域における地域からの意見把握等について

参考資料 3

1 実施年月日

羅臼町 令和 7 年 10 月 21 日 (火)
斜里町 令和 7 年 10 月 23 日 (木)

2 参加範囲

地域住民 (自治会・町内会)、観光・ガイド、猟友会、農業従事者、捕獲事業者、利活用事業者、警察、行政関係 (斜里町、羅臼町、環境省、北海道、林野庁)

3 2025 (令和 7) 年度の結果

(1) 密度感に関するご意見

一時期、減少した印象はあったが、高止まりである全道の状況同様の印象。これまで隣接地域で個体数調整を進めてきた以下の場所が高密度であるとの印象。

〔羅臼町〕

- ・ 春茹古丹川以南 (これまで多く捕獲してきた場所)
- ・ 栄町付近、湯ノ沢・ビジターセンター付近
- ・ 国道よりも山側に少し入った場所 (目立たない場所)
- ・ 標津町との境界以南 (ライトセンサスで 100 頭規模の群れを確認)

〔斜里町〕

- ・ 半島基部含めて町全体で増加傾向 (駆除数が昨年との倍のペース)
- ・ ウトロ高原 (10 頭越えの群れを複数確認、昼は山林、日没後に群れで出沒)
- ・ 真鯉、遠音別等 (これまで捕獲数が多かった場所)

(2) 個体数調整に対するご意見

遺産地域、隣接地域ともに、本年度の計画どおりに進め、今後も捕獲圧をかけ続けて欲しいとの要望が強い。

〔羅臼町・斜里町〕

- ・ 農業被害、交通事故、地域住民への危害への心配等害が多いこと、観光資源としての影響はないことなどから、個体数調整を積極的に実施して欲しい。
- ・ 将来的には、コミュニティーベースで個体数調整が可能となるよう可猟区域を可能な範囲で確保して欲しい。

(3) その他意見交換

〔羅臼町〕

- ・ 標津町との境界付近では、今年度の 5 月にあまり捕獲できなかったが、これは、標津町での駆除が 3 月まで実施されたことにより警戒心が増したためと考えられる。このため、羅臼町としては、来年度は、さらに間隔をあけた 6、9 月に駆除を実施することを検討しているところ。
- ・ 標津町から、町境付近の国有林の伐採作業現場において、伐採終了後に有害駆除の要望があり、根釧東部森林管理署と林業事業体で調整中。

〔斜里町〕

- ・ 斜里町内では、駆除が進み、住民生活に実害があまり現れていないが、生息数が 2 倍に増えると生態系に与える影響も目に見えて大きくなるので、捕獲圧を緩めず、有害駆除や捕獲事業を継続すべき。
- ・ 遠音別川から北側では、エゾシカが絡む交通事故は多くはなく、エゾシカファーム付近で稀に起きる。事故が多いのは、五湖に向かう道道 93 号線と知床峠に向かう国道 334 号線。

(4) エゾシカ有効活用事業者等からの情報提供

〔羅臼町〕

- ・ 全国でシカ駆除が行われている中、有利販売を促進するため、高品質な原材料のみ取り扱っており、販路拡大は考えていないことから、自ら吟味し、少量確保している。

〔斜里町〕

- ・ 地元猟友会からの搬入が最も多い。
- ・ 搬入数が多いのは、昇順で、北海道実施のジビエ拡大事業、地元猟友会の有害駆除、近隣地区の猟友会の有害駆除、北海道内各地で北海道 (環境生活・林務) が実施するエゾシカ捕獲事業、別海町の生体捕獲。
- ・ 生体捕獲が近年ふるわず、年間 1000 頭は確保したいが、その確保に苦慮している状況。冬期の気候変動も関係しているものと思量。
- ・ コロナ禍からの脱却が進み、需要は回復傾向にあるが、人手不足等も影響して、思うように増産に結び付かないところ。